

熱 狂 チェルト

〔管弦楽〕日本センチュリー交響楽団
〔指揮〕現田茂夫

2025

南 紫音 × 佐藤晴真 × 上原彩子

ブルッフ:

ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26 〈南 紫音〉

シューマン:

チェロ協奏曲 イ短調 op.129 〈佐藤晴真〉

ブラームス:

ピアノ協奏曲 第1番 ニ短調 op.15 〈上原彩子〉



2025 **2.24** (月・休) 14:00開演(13:00開場)
S: 7,700円 A: 6,600円 B: 5,500円(税込) 主催: ザ・シンフォニーホール

〈ご予約・お問合せ〉ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonycall.jp>

プレイガイド

■ E+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonycall/> (パソコン・携帯) ■ ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonycall/> [Lコード: 56985]
■ チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonycall/> [Pコード: 269-922]

※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。※公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

南 紫 音 × 佐 藤 晴 真 × 上 原 彩 子

熱狂コンチェルト2025

舞台にずらりと居並ぶオーケストラをバックに、ソリストたちがまばゆい技巧のかぎりをつくし、華やかなソロをくりひろげる。協奏曲は、まさにコンサートの「華」である。毎年ザ・シンフォニーホールで開催されてきた「熱狂コンチェルト」は今もっとも聴きたいソリストたちを招いた人気企画。2月24日の「熱狂コンチェルト2025」にも魅力的な奏者たちが揃う。ヴァイオリンの南紫音は、ロン＝ティボー国際コンクール2位という実力派で、ブルッフの協奏曲第1番を披露する。チェロ界期待の新鋭の佐藤晴真は、ミュンヘン国際コンクールの日本人初の覇者。シューマンの味わい深い協奏曲を聴かせてくれる。そして我が国を代表するピアニストの上原彩子が弾くのは、ブラームスのピアノ協奏曲第1番。デビュー20周年を経て、その演奏はさらに円熟味を増している。現田茂夫と日本センチュリー交響楽団のサポートも万全であり、3名の名手たちの記憶に残る演奏が待ち遠しい。

文・伊藤制子

【指揮】現田茂夫 Shigeo Genda, Conductor

1979年東京音楽大学指揮専攻に入学。汐澤安彦、三石精一両氏に師事。1982年東京藝術大学指揮専攻に入学。佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。神奈川フィルハーモニー管弦楽団名誉指揮者。他、国内外の主要オーケストラも指揮し好評を得ている。1994年のプラハの春での佐藤しのぶコンサートは全ヨーロッパで放映された。オペラ指揮者としての経験は豊かで二期会21、関西二期会、錦織健プロデュースオペラ、佐藤しのぶ「夕鶴」公演等、歌手からの信頼も厚い。NHKのFM「シンフォニー・コンサート」のパーソナリティを長年務める等バラエティに富んだ活動を行なっている。2023年からは東京藝術大学指揮科客員教授として後進の指導にもあたっている。



© K.Miura



© Kei Uesugi

【ヴァイオリン】南 紫音 Shion Minami, Violin

2005年ロン＝ティボー国際コンクール第2位を受賞し、一躍国際的注目を集めた若手実力派。15年には難関で知られるハノーファー国際ヴァイオリン・コンクール第2位を受賞。ほかアルベルト・クルチ国際ヴァイオリン・コンクールにも優勝。これまでにフランス国立管弦楽団、リール国立管弦楽団、サンカルロ歌劇場管弦楽団、ミラノ・スカラ座室内合奏団とも共演。スペイン・ビルバオ交響楽団との日本ツアーも好評を博した。20年には、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会を清水和音氏をパートナーに迎えて行い大きな話題を集めた。CDはユニバーサルミュージックより3枚リリース。10年ホテルオークラ賞、11年出光音楽賞、17年北九州市民文化賞受賞。



© Takashi Okamoto

【チェロ】佐藤晴真 Haruma Sato, Cello

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクール チェロ部門において日本人として初めて優勝。18年にはルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位および特別賞を受賞。第83回日本音楽コンクール チェロ部門第1位および徳永賞・黒柳賞など受賞多数。国内外の主要オーケストラと共演しており、リサイタル、室内楽でも好評を博している。20年、名門ドイツ・グラモフォンよりデビューアルバムをリリースし、23年4月には3枚目のアルバムとなる『歌の翼に～メンデルスゾーン作品集』をリリースした。第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回出光音楽賞、第32回日本製鉄音楽賞受賞。21年度文化庁長官表彰（国際芸術部門）。江副記念リクルート財団第52回奨学生。使用楽器は宗次コレクション貸与のE.ロッカ1903年。



© Akira Muto

【ピアノ】上原彩子 Ayako Uehara, Piano

第12回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門において、女性としてまた日本人として史上初の第一位を獲得。

これまでにノセダ、ルイージ、ペトレンコ、小澤征爾、小林研一郎、飯森範親各氏等の指揮のもと、国内外のオーケストラと共演。2017年3月にはベルリン及び日本国内4都市においてインバル指揮ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と共演、高い評価を受けた。

CDはEMIクラシックスから3枚がワールドワイドで、またキングレコードより「デビュー20周年記念コンサート・ライブ盤」等がリリースされている。

東京藝術大学音楽学部早期教育リサーチセンター准教授。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、令和4年度文化庁長官表彰受賞。



© 井上嘉和

【管弦楽】日本センチュリー交響楽団 街に響く。心に届く。 Japan Century Symphony Orchestra

1989年に活動を開始し、大阪府・豊中市を拠点に活動するオーケストラ。現在、飯森範親が首席指揮者、秋山和慶がミュージックアドバイザー、久石譲が首席客演指揮者（2025年4月より音楽監督就任予定）を務める。ザ・シンフォニーホールで開催するシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」に加えて、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズを展開する。オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」、ユースオーケストラの運営といった教育プログラム、「豊中まちなかクラシック」（豊中市）、「ルシオール街かどコンサート」（滋賀県守山市）等の地域連携事業にも力を入れている。2024年12月に楽団創立35周年を迎える。 オフィシャル・ホームページ <https://jcso.or.jp>